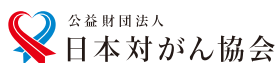


## 主な役員

|       |       |                |
|-------|-------|----------------|
| 会 長   | 垣添 忠生 | 元国立がんセンター総長    |
| 理 事 長 | 梅田 正行 | 朝日新聞社顧問        |
| 常務理事  | 石田 一郎 | 日本対がん協会業務執行理事  |
| 常務理事  | 佐野 武  | がん研有明病院 病院長    |
| 常務理事  | 中釜 斉  | 国立がん研究センター 理事長 |



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階  
TEL. 03-3541-4771 平日10～17時

日本対がん協会公式ホームページ

[www.jcancer.jp](http://www.jcancer.jp)



日本対がん協会公式Twitter

@jcancerjp



日本対がん協会公式Facebook

JapanCancerSociety



この冊子は、FSC®森林認証紙を使用しています。



この冊子は、再生産可能な大豆油等の植物由来油を使用したベジタブルインキを使用しています。

# 日本対がん協会 活動報告とこれから

ANNUAL REPORT 2020  
BEYOND 2021-2022



がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



公益財団法人

日本対がん協会

# ごあいさつ

新型コロナウイルスで大変困難な状況が続いている中でも、日本対がん協会に対して温かいご厚志を頂戴し、心より御礼申し上げます。



昨年度は弊会が例年開催していた、多くの方々が集まって行う啓発イベントや患者さんやご家族の支援活動など、そのほとんどを中止せざるを得なくなりました。そこで、イベントのオンライン化など新しい生活様式の中での活動を模索した一年でした。さまざまな課題に直面しながらも活動を継続できましたのは、ひとえに皆様のご支援のおかげです。

医療の進歩により「がんは治る時代」に入ったといわれますが、早期発見の大切さは変わることはありません。しかし、コロナによる検診控えで受診者が激減し、早期発見が遅れてしまう状況にあることが弊会支部の検診データの解析でわかりました。近い将来、がんが進行した状態で見つかる人が増えることが懸念されるため、コロナ禍での検診受診の呼びかけを喫緊の課題としてとらえ、力を入れて取り組んでおります。

私たちは「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」という目標に向けて、今年度も全力で活動を推進します。引き続き皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

日本対がん協会会長 垣添忠生

わたしたちは大きく3つの活動を行っています



# 2020年度寄付金のご報告

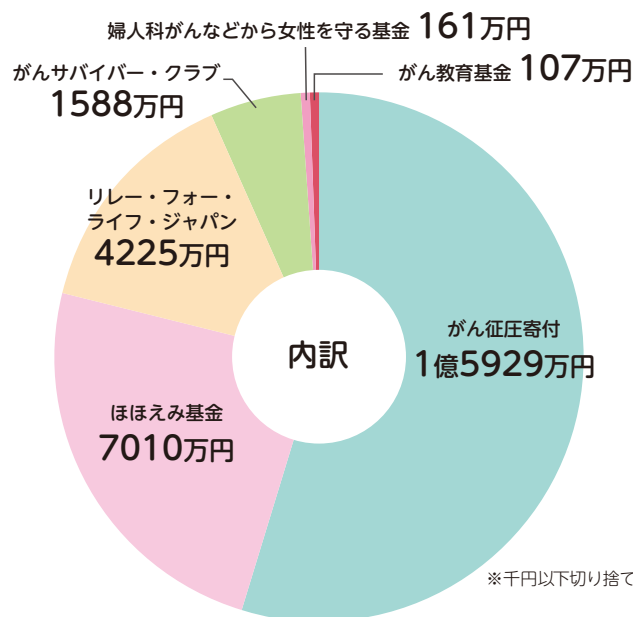
## 寄付額と使途

多くのご支援のおかげで、わたしたちはがん征圧活動を展開することができました。ご寄付はすべて、がん征圧のために使わせていただきました。

### 2020年度寄付額総額

## 2億9022万7842円

| 寄付金の内訳 | 法人     | 個人     |
|--------|--------|--------|
|        | 74.36% | 25.64% |



- がん征圧寄付……………がん征圧活動全般と運営
- ほほえみ基金……………乳がんに関わる活動
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン……………がんの研究助成やがん治療専門家の育成など
- がんサバイバー・クラブ……………がんサバイバーとその家族をサポートする活動など
- 婦人科がんなどから女性を守る基金……………子宮頸がんをはじめ婦人科がんについて、新しい検診方法の調査・研究活動など
- がん教育基金……………子どもたちにがんの正しい知識を伝えるための活動

# コロナ禍のがん検診

## 受診者の減少 支部への調査を通じて警鐘

コロナ禍は、ウイルス感染が直接引き起こす肺炎などの病気だけでなく、他の様々な疾患にも影響を及ぼしています。がんはその最たるものでしょう。

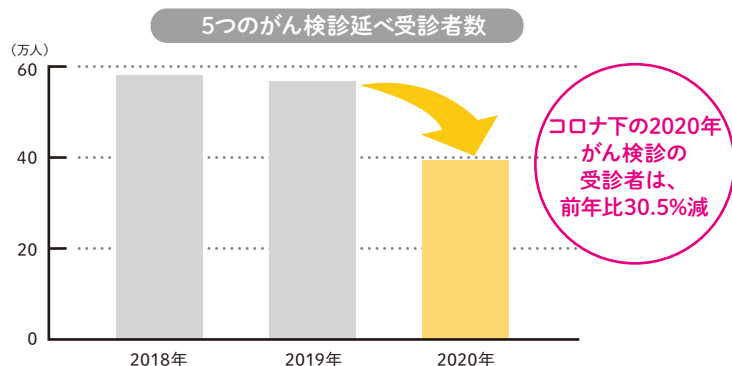
2020年春の第1波。政府が発出した緊急事態宣言で自治体が実施する各種検診が軒並み中止・延期されました。

がん検診への影響は——。宣言の解除後すぐ、対がん協会は全国支部に調査しました。結果は、驚くべき数字でした。特に5月、受診者が前年5月より9割も減っていたのです。

検診は健康な人を対象に、潜んだがんを見つけよう、というものです。検診で見つかるがんは早期が過半です。受診者が減ると早期発見が減るのは、と危惧されます。

がんの発生率自体は大きくは変わりません。「その時」だったら早期で見つかったがんが、1年経ち、2年経ちして自覚症状で見つかったら、進行期になっている可能性があります。

2020年、支部のがん検診受診者は前年より3割減りました。全国の年間のがん診断数にあてはめて計算すると、1万人から3万人のがんが未発見になったのでは、と危惧されます。



## メディアにも働きかけ 受診を呼びかける

新型コロナウイルス感染拡大の影響でがん検診の受診者が激減し、近い将来、進行がんが増える恐れがある——。日本対がん協会が各支部の協力を得て実施した調査結果は大きな反響を呼びました。協会機関紙「対がん協会報」が伝えた調査概要をきっかけにテレビ、新聞、ネットメディアなどでこの問題が多数取り上げられ、様々な「受診控え」の弊害が広く報じられるようになりました。

これらの取材には協会として積極的に協力し、「早期発見のカギは定期的ながん検診を欠かさず続けること」を強く訴えました。また、検診機関が「3密」を回避するために予約制を導入したり、検温や手指消毒はもちろん検査機器も1人ごとに消毒したりするなど徹底した感染防止対策をとっていることをメディアを通じて広く紹介し、「コロナを恐れるあまり早期がん発見の機会を逃しては本末転倒。安心して受診を」と呼びかけました。



写真提供：埼玉県支部（公益財団法人埼玉県健康づくり事業団）

# 患者さん・ご家族の支援

## 気持ちに寄り添う 無料がん相談

「がん相談ホットライン」には、2020年度も患者さんやご家族、ご友人などから、体のこと、心のこと、暮らしに関わることなど、がんに関する様々な相談がありました。さらに、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染や重症化の不安や恐怖をうったえる相談が多く寄せられました。震える声で「感染が怖い……」と話し、おびえている様子が電話越しにも伝わってくる方もいました。看護師・社会福祉士の相談員は、ご相談者の不安が少しでも和らぐようじっくり耳を傾け気持ちに寄り添うよう努めました。

また、寄せられた声をもとに、専門医と社会保険労務士による「がん患者のための新型コロナウイルス特別相談」を実施しました。

そのほか、仕事と治療の両立については「社会保険労務士によるがん就労電話相談」、治療に関しては「専門医によるがん無料相談」も多くの方にご利用いただきました。

### がん相談ホットラインを利用された方の声

- コロナの不安が言えたことで気持ちが楽になりました。
- 以前からずっと利用させてもらっています。家族には言えないからありがたいです。コロナのことがあり大変な時に本当にありがとうございます。でも、こうしてやってくださっていて救われます。
- 不安を吐き出すことで何が不安か、何をどう思っているか、自分の考えが整理されていくと感じます。吐き出すことは大事だと思いました。

## 乳がん月間の電話相談

10月の乳がん月間に専門医が無料で乳がんに関するご相談をお受けする「乳がん電話特別相談」を実施しました。30代から80代までの幅広い年代の方、計26人の方が利用されました。

### 利用された方の声

- セカンドオピニオンは経済的に負担が大きくてできなかったのですが、無料で専門医に話を聞けてとてもありがたかったです。とても安心しました。

## 動画での情報提供

### がん患者さんのための新型コロナウイルス対策の動画配信

がん患者さんは、新型コロナウイルスで重症化するリスクが高いといわれています。何に注意し、どう行動したらよいのでしょうか。

そこで緊急シリーズとして、がん、感染症などの専門医たちに伺った動画を作成しました。

動画の詳細については右のQRコードをご覧ください。



### 2020年4月よりラジオ

### 「Changeの瞬間(とき)～がんサバイバーストーリー」をスタート

フリーアナウンサーの八木早希さんの進行で、各方面で活躍しているがんを乗り越えたがんサバイバーをゲストに迎え、生き方を学び、考える番組です。

東京地区ではTBSラジオが毎週土曜午前8時45分から、大阪地区ではABCラジオが毎週日曜午前8時10分から放送し、これまで多数の著名人にも出演いただいております。

番組の詳細については右のQRコードをご覧ください。



## がん相談ホットライン (おひとり20分)

☎03-3541-7830 祝日・年末年始を除く毎日10時～18時

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談の受付時間を変更することがあります。  
詳しくは公式サイトでご確認ください。

# 患者さん・ご家族の支援

## リレー・フォー・ライフ (RFL)

がんサバイバーやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧を目指すチャリティー活動です。会場では患者さんやサバイバー、支援者の皆さんがチームを作り、仲間とタスキをつなぎながら、寄付を募ります。



### 2020年度の活動

コロナ禍において全国的なリレーイベントの開催が叶わない中、2020年度より「RFLセルフウォークリレー」を実施し、がんサバイバーや参加者の想いをオンラインで繋いでいます。従来のリアルイベントとは異なり、スマホアプリをもつ個人が、好きな場所、好きな時間に、「3密」を避けてウォークに参加しました。スマホアプリを持参し歩いた歩数は自動計測され、その歩数に応じた寄付や参加費の一部は、がん相談ホットラインなど患者支援に充てられます。

2020年度は10地区のRFL実行委員会と共に運営、2,006人が参加し目標の3億歩を達成しました。2021年度は全国規模の展開を目指しています。

### RFLの寄付金の使い道

#### ○若手医師育成のための奨学金

がん治療をますます進化させるためには、優秀な医師の育成が欠かせません。「マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」は、意欲溢れる若手医師を世界的に有名ながんの専門機関「テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター」「シカゴ大学医学部」へ派遣するためのプログラムです。

#### ○新しい治療法・新薬の開発・研究助成

「プロジェクト未来」によって患者さんやそのご家族を支援する研究を助成しています。2020年度は新型コロナウイルスのため中断しています。

#### ○「がん相談ホットライン」「がん検診受診率向上」の各事業にも活用されています

## がんサバイバー・クラブ



がんサバイバー（一度でもがんと診断された事のある人）の「知りたい」「治りたい」「普通の生活がしたい」という思いや、家族や大切な人を「支えたい」という気持ちをサポートします。ウェブサイトやSNSを通じて信頼できる情報を提供したり、患者どうしがオンラインを通じて会って交流できるイベントを定期的に開催したりしているほか、がんに関する動画配信なども行っています。

### 情報発信

スタッフがほぼ毎日がんに関するニュースを厳選し、ホームページやSNSを通じて年間700本以上を配信しています。話題の治療法についてのインタビュー記事やスタッフレポート、がん相談ホットラインの記事、日本対がん協会評議員の佐々木常雄先生をはじめ著名な連載陣らのエッセイを掲載しています。株式会社資生堂と協働で、アピランスブックレット「がん患者さんのためのBeauty Book」を発行したほか、男性版の「男の整容本」を実際にモデルが再現し、プロのアドバイスをしながら学べる動画を公開しました。

### 患者同士をつなげる サバイバーネット

がん患者家族をつなげるSNS「サバイバーネット」の登録者は現在約1,500人、432団体となっています。また、簡単操作マニュアルの動画作成などを行い皆さんにより使いやすい環境を提供しています。

### がんサバイバーカフェ

がん患者や家族の関心が高いテーマを取り上げ、参加者が気兼ねなく学べる交流会を毎月1回開催しています。現在は「オンラインおはなし会」も加わり、安心して参加できる交流会を継続しています。

### ジャパンキャンサーサバイバーズデイ

年間を通じた動画発信とし、国立がん研究センターの中釜斉理事長らにご出演いただき、12本の動画を作成、公開しました。



### ブルーリボンキャンペーン（大腸がん啓発）

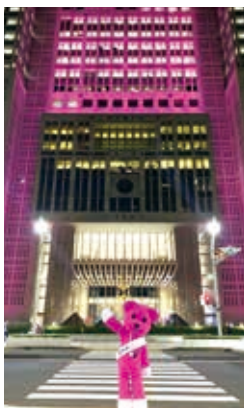
3月の大腸がん啓発月間に、啓発カラーの青で建物などのライトアップを行っています。弊社からの依頼に賛同した東京都庁、長野県相澤病院がブルーライトアップを実施しました。



## ピンクリボンフェスティバル



2020年度で18回目の開催となったピンクリボンフェスティバルは、日本最大級のピンクリボン活動です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止したイベントもありましたが、毎月19日を「ピンクの日」とし、乳房セルフチェックを推奨するキャンペーンを展開するなどオンライン中心の啓発活動に力を注ぎました。専門医が乳がんの最新治療や心のケアについて講演するシンポジウムを、初めて動画でWeb配信したところ、再生回数が6500回を超えるなど、全国の患者・家族の方に最新情報を届けることができました。今後もさまざまなアプローチで活動を展開します。フェスティバルの開催には、企業の協賛金やほほえみ基金へのご寄付を活用しています。



## がん教育、聴覚障がい者向け教材の提供

学習指導要領の改訂で中学校では2021年度からがん教育が全面实施されます。高校でも22年度入学生から年次進行で実施されます。日本対がん協会は2009年に「がん教育基金」を設け、出張授業の開催やDVD教材の提供などを通じて学校でのがん教育を支援し、その重要性を訴えてきました。がんサバイバーの協会職員を外部講師として派遣する取り組みも続けています。

中学校・高校でのがん教育本格化に伴い、小学校でもがん教育が重視されています。そうした動きにこたえるため、小学校高学年以上を主な対象とする子ども向けの読み物「まんが みんなのがん読本」を作成し、Web公開しました。生涯で2人に1人ががんになり、年間死亡者の3割近くががんで亡くなっている現状に触れた後、がんの原因とがんの種類を説明。さらに禁煙などのがん予防、国が勧める5つのがん検診、命と健康の大切さなどを解説しています。漫画形式でところどころにクイズを織り込むなど、子どもたちが読みやすいように編集しました。漫画は、乳がんサバイバーの夢野かつきさんに依頼しました。



2020年に制作した「まんが みんなのがん読本」

がん教育は様々なハンディキャップがある人にも等しく受ける権利が保障されなければなりません。株式会社アイエスゲート、社会福祉法人聴力障害者情報文化センターの協力で制作した耳の不自由な人向けの手話字幕入りがん教育DVDを、全国聾学校長会を通じて各地のろう学校・聴覚特別支援学校約100校に贈る活動にも取り組みました。

# がん予防・検診の推進

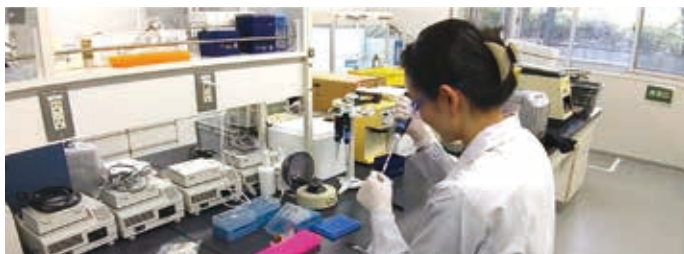
## 新しい検診手法の研究

医学・技術の進展が、がん早期発見の手法を大きく変える可能性を秘めています。それも、血液で、尿で……といったように、体への負担のない、もしくは少ない方法が実用化されるようになってきました。それでがんが見つかるなら、朗報になるのは間違いありません。

日本対がん協会は、国立がん研究センターや各地の大学等と連携し、日本医療研究開発機構（AMED）の研究費により、血液中のマイクロRNAやバイオマーカーを測って早期の乳がんや膵がんの発見をめざす研究を進めています。新しい検査が実用化につながるのかどうか、データに基づき分析・評価するためです。

こうした先端の研究を実施できるのも、全国の支部が精度の高いがん検診を実施しているからです。いずれの研究も支部の検診体制を基盤に構築しています。特に死亡率が高く、難治がんの代表とされる膵がんの早期発見法の開発は喫緊の課題で、世界が注目しています。

このほか、自身の都合に合わせ、どこでも子宮頸がん検診の検体を採取できる「自己採取HPV検査」についても、支部や大学等と研究を進めています。検査を受けに医療機関や健診機関に行く必要がなく、コロナ禍の下での「密」を避ける検査だとして欧州で広がりつつあります。日本対がん協会では、「婦人科がんなどから女性を守る基金」なども活用して、子宮頸がんの啓発を行っています。長く検診を受けていない人に自己採取キットを使ってもらい、定期的な検診の受診につなげるよう、啓発活動の一環として有用性を検証しています。



## 「コロナ下でも『がん検診』は必要です!!」の啓発活動

新型コロナウイルス拡大の影響で受診者が極端に落ち込んだがん検診。未受診の人が増えた結果、遠からず進行がんが多数見つかるような事態は何としても食い止めなければなりません。日本対がん協会と全国の支部にとって受診者数の回復は急務の課題となっています。

緊急事態宣言の解除後、各支部は検診の遅れを取り戻すため例年以上に集中的な検診日程を組みました。これを支援するため、協会ではPDF版の啓発チラシ「コロナ下でも『がん検診』は必要です!!」を制作しました。「コロナは防いだけれど、がんが進行していた、では本末転倒です」「検診機関は感染防止対策をとっており、がん検診は怖くありません」などと訴える内容です。地域や職場で広く使ってもらえるよう、協会ホームページからダウンロードして自由に印刷・配布できるようにしました。



がん征圧には検診の推進とともに、がんを予防する生活習慣も大切です。最も重要ながん予防策の一つである禁煙についても、毎年のシリーズとなっているインパクトのあるポスターを制作して啓発に取り組みました。受動喫煙対策を強化する改正健康増進法が2020年4月に全面施行されて禁煙への関心も高まっており、ポスターは自治体や医療機関、企業などで掲示、活用されました。



# がん征圧に向けて

## がん征圧月間、全国大会

毎年9月は「がん征圧月間」です。全国の対がん協会グループ支部とともに活動を展開しています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、活動の中心はイベントからマスメディアやマスWEBを活用した広報活動が中心となりました。

宮崎県で開催予定だった第53回がん征圧全国大会は東京からZoomとYouTubeによるオンライン配信になり、朝日がん大賞と日本対がん協会報の表彰と「コロナ時代のがん検診」をテーマにシンポジウムを行いました。



## 検診無料クーポン券事業

2020年度も受診のきっかけとなるように、協会独自の乳がん（マンモグラフィー）検診無料クーポン券を1,600枚、子宮頸がん検診無料クーポン券を500枚発行、配布しました。



## 医療従事者向け研修会

「マンモグラフィー撮影技術講習会」「乳房超音波技術講習会」「放射線技師研修会」は、いずれも新型コロナの影響で中止しました。

## 東京マラソンの寄付先団体として

日本対がん協会は、初めて東京マラソンのチャリティ寄付先団体に選ばれました。しかし、新型コロナ感染拡大の影響を受け、東京マラソン2020一般の部が中止されたことに伴い、チャリティランナーの出走権が東京マラソン2021または2022へ移行されることになりました。ご寄付をいただいた方には、自らも大腸がんサバイバーであるプロランニングコーチ金哲彦さんの「ランニングフォームクリニック」へオンラインでご参加いただきました。



## パートナー団体との連携によるがん患者支援事業



安心して自分らしく生きる

がん患者の「働く」と「QOL向上」を6つの事業（団体）で支援。見落とされがちな課題への挑戦、新規性・実装性・専門性、医療従事者や患者会・企業・行政とのネットワークの視点で取り組んでいます。日本対がん協会は独自のリソースで連携し、「がんとの共生～自分らしく生きる～」を後押ししています。

## がん患者支援事業の3つのテーマ

- 1.仕事とがん治療の両立支援
- 2.AYA世代（15歳から39歳）がん患者や小児がん患者、希少がん患者のQOL向上支援
- 3.新しいがん相談体制（仕組み）の構築

（注）本事業は休眠預金、及び当協会・パートナー団体の自己資金を原資とした3年間（2020—2022年度）の草の根活動で、日本対がん協会が休眠預金活用のがん患者支援事業の資金配分団体に選ばれたことから始まりました。

がん患者支援事業  
公式サイト





## SDGsと日本対がん協会

日本対がん協会のパーパス「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」は、SDGsの重要なフレーズ「だれひとり取り残さない」と目指す方向が同じです。がん征圧活動は「医療・健康問題」だけでなく「社会問題」「経済問題」の解決を目指す活動でもあります。日本対がん協会の活動は、SDGsの9つのゴール、16のターゲットの達成に寄与しています。



### SDGsがめざすゴールと協会のおもな活動



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

- がんサバイバー・クラブ



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- がん教育の推進



すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

- 社会保険労務士による「がん」と就労」電話相談
- 休眠預金活用の助成金事業



国内および国家間の格差を是正する

- がんサバイバー・クラブ
- リレー・フォー・ライフ
- がん相談ホットライン



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

- がんサバイバー・クラブ
- リレー・フォー・ライフ
- がん相談ホットライン



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

- がん検診の推進
- がん征圧月間
- 禁煙推進
- 休眠預金活用の助成金事業
- 新しい検診手法の研究
- ピンクリボンフェスティバル



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る

- がん相談ホットライン
- 休眠預金活用の助成金事業



強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

- リレー・フォー・ライフ



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

- リレー・フォー・ライフ
- ピンクリボンフェスティバル
- 休眠預金活用の助成金事業
- 新しい検診手法の研究

## コロナ禍で生じた新たな課題解決への取り組み

コロナ禍で、がんを取り巻く環境も大きな影響を受けました。激減したがん検診の受診者数の回復、孤立化し不安を持つがん患者の支援や情報提供など喫緊の課題に取り組みます。適切なタイミングで、正確な情報発信を心がけており、例えばがん患者のワクチン接種について動画を制作し発信し多くの方に視聴いただいています。

## 他団体との協働によるがん患者支援事業

休眠預金活用事業の資金分配団体として、がん患者支援活動の領域を広げていきます。企業、公的団体など他のセクターの方々力を借りながら取り残される方がでないよう社会的インパクトを出していきます。

## ヘルスリテラシーの向上と行動のための情報発信

がんを罹患する方の約3割が就労年齢の方です。がんに正しく備えるために、現役世代のがんリテラシー向上を目指す取り組みを行います。

## がんとの共生社会を目指すプロジェクト「ネクストリボン」の開催

がんになっても、安心して働き、暮らせることができ、また、誰もががんを自分の問題として考え、早期発見のためにがん検診をするのが当たり前の社会づくりを推進しようと、朝日新聞社と活動しています。「がん＝死」のイメージの払拭も目指しています。

2021年2月4日（ワールドキャンサーデー）には、オンラインイベントを開催しました。



# ご支援のお願い

お近くの金融機関よりお振り込みをお願いいたします

| 活動全般<br>へのご支援 | 金融名     | 支店名(店番号)   | 口座番号       | 口座名義              |
|---------------|---------|------------|------------|-------------------|
|               | みずほ銀行   | 銀座支店(035)  | 普通 1003855 | 公益財団法人<br>日本対がん協会 |
|               | 三菱UFJ銀行 | 京橋支店(023)  | 普通 1718240 |                   |
|               | 三井住友銀行  | 丸ノ内支店(045) | 普通 0518150 |                   |

郵便局(ゆうちょ銀行)からお振り込みいただく場合は手数料が免除になる振り込み用紙をお送りします。「使いみち」をご指定いただく場合は、基金名を通信欄にお書きください

|        | 振替口座番号       | 口座名義          |
|--------|--------------|---------------|
| ゆうちょ銀行 | 00180-1-5140 | 公益財団法人日本対がん協会 |

「使いみち」をご指定いただくこともできます

| 支援先                  | 金融名     | 支店名(店番号)   | 口座番号       | 口座名義              |
|----------------------|---------|------------|------------|-------------------|
| ほほえみ基金               | みずほ銀行   | 銀座支店(035)  | 普通 1003855 | 公益財団法人<br>日本対がん協会 |
| 婦人科がんなどから<br>女性を守る基金 | 三菱UFJ銀行 | 京橋支店(023)  | 普通 1718240 |                   |
| がん教育基金               | 三井住友銀行  | 丸ノ内支店(045) | 普通 0518150 |                   |

## ほほえみ基金

乳がん検診の受診による早期発見・適切な治療の推進、患者の支援、患者会の活動助成、検診機器整備等への助成、検診従事者や専門家の育成に活用しています。

## 婦人科がんなどから女性を守る基金

子宮頸がんなど婦人科がんなどの正しい知識の普及啓発、受診率向上のため自宅で検体採取できる「自己採取HPV検査キット」の研究や新しい検査方法の調査に活用しています。

## がん教育基金

子どもたちにがんの正しい知識を伝えるための出張授業や、専門家の監修による教材の制作、協会職員でがんサバイバーを外部講師として派遣するなど、さまざまな事業に活用させていただいています。

## 遺産のご寄付

当協会では遺言によるご寄付(遺贈)、相続財産のご寄付、そして香典・お花料からのご寄付など遺産寄付の仕組みがございます。資料をご用意しております。公式サイトよりご請求ください。ご寄付いただいた額について相続税はかかりません。

## 不動産・株式などのご寄付

不動産や株式など現物による遺贈のご相談も承っております。山林、田畑や古家など換価が難しいものが含まれる際は、遺贈をお受けできない場合があります。不動産や株式などの遺贈に伴って発生する税については当協会が負担します。

## 紺綬褒章

日本対がん協会は、内閣府より公益のために私財を寄付された方々へ授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けました。個人では500万円以上、団体・企業等は1,000万円以上を日本対がん協会にご寄付いただいた方々でご希望の場合、紺綬褒章の授与申請をいたします。



詳しくは  
[www.jccancer.jp/donation](http://www.jccancer.jp/donation)

